

はじめに 6

第一章 いつから、そしてなぜ、包み始めたのか？ 13

1. 縄文時代の人たち 14

縄文時代からすでに高度な技術／三内丸山遺跡出土のおしゃれなポシェット
東名遺跡出土のザルやカゴ／現代までつづく編みと組みの技法／漆塗りの藍胎漆器

2. 縄文時代の包み 25

機能性と装飾性／技能の歴史

第二章 どんなものを包んできたのか？ 31

1. 何を包むか？ 何で包むか？ 32

2. 身体を包む 33

(1) 古墳時代から奈良時代へ 33

埴輪にみる衣服／『魏志倭人伝』にみる衣服／糸紡ぎと機織りの技術／『隋書倭国伝』と「天壽国繡帳」／天武朝の服飾改革
高松塚古墳壁画／『万葉集』にみる衣装／奈良時代の官人の服装／習俗・制度・流行の三つの波

(2) 平安時代から江戸時代へ 60

服装の日本化 束帯 唐衣裳装束／男性の服装とその変化 直衣 狩衣 水干 直垂 肩衣袴 袴 羽織袴

はじめに 6

第一章 いつから、そしてなぜ、包み始めたのか？ 13

1. 縄文時代の人たち 14

縄文時代からすでに高度な技術／三内丸山遺跡出土のおしゃれなポシェット
東名遺跡出土のザルやカゴ／現代までつづく編みと組みの技法／漆塗りの藍胎漆器

2. 縄文時代の包み 25

機能性と装飾性／技能の歴史

第二章 どんなものを包んできたのか？ 31

1. 何を包むか？ 何で包むか？ 32

2. 身体を包む 33

(1) 古墳時代から奈良時代へ 33

埴輪にみる衣服／『魏志倭人伝』にみる衣服／糸紡ぎと機織りの技術／『隋書倭国伝』と「天壽国繡帳」／天武朝の服飾改革
高松塚古墳壁画／『万葉集』にみる衣装／奈良時代の官人の服装／習俗・制度・流行の三つの波

(2) 平安時代から江戸時代へ 60

服装の日本化 束帯 唐衣裳装束／男性の服装とその変化 直衣 狩衣 水干 直垂 肩衣袴 袴 羽織袴

第三章 どうして食べ物を包むのか？ 125

1. 食べ物を包む 126

(1) 葉に盛る伝統 127

筥に盛る飯を椎の葉に盛る／葉に盛る行事食／ゆずり葉と鏡餅
崇徳天皇の正月の膳／「魂祭り」の伝承

(2) 稲米を包む民俗 136

米俵／粟でつくる米俵／米俵と一人前／貴重な生活資源だった粟

(3) 神饌の米飯と神酒 143

酒樽の菰被り／白米飯と白餅

(4) 食べ方の工夫 150

手食と箸食／弁当／おにぎり おむすび

(5) 葉包み食のいろいろ 162

鯖寿司・柿の葉寿司・笹ずし／あくまき・かからんだご／ちまき／かしわもち／さるとりいばらの葉

ちまきと葉包み餅の両方をつくる／笹もち／沖繩のむーち（鬼餅）／芭蕉の葉に包む弁当
宮古の豚肉の塩漬け／球磨地方の豚肉の保存

(6) 薬苞包み 177

こも巻き豆腐／薬苞納豆／冬季に野菜を保存するつぐら／製造 発見 風味

2. 商品化と高級品化 184

道喜ちまき／生麩の笹巻／桜餅／京都のさばずし／柿の葉寿司／虎屋の羊羹

3. 贈り物 193

「ものに心をこめる」／熨斗と熨斗紙

第四章 「包む」行為は何を隠し、何をあらわしているのか？ 197

1. 神話からのメッセージ 198

下半身を隠す

(1) 下着の変化 200

腰巻の時代／現代の下着の登場

(2) 性の禁忌 205

性の日常化／性愛と禁忌

2. 貨幣の神秘 210

(1) 現金は誘惑する 210

包まない銭貨／包む小判／現金は包むのが礼儀

(2) 貨幣とは何か？ 216

「死の発見」と子安貝／「死の発見」・性の禁忌・貨幣の誕生

第五章 「包む」文化の深奥 221

1. 京都の歴史と力 223

(1) 神秘と威力 223

遷宮／姿を見せぬ王 見せる王

(2) 平安京の原点 227

怨霊から逃れるための新都／聖武系の皇后と皇太子を謀殺／早良親王の謀殺

長岡京からの脱出／平安を願う宮都

(3) 祇園御霊会 233

御霊会／祇園社の祭神／祇園天神から牛頭天王へ／牛頭天王の縁起／『辟邪絵』と牛頭天王

卜部兼俱の『二十二社註式』／祇園祭の変遷／風流と疫神

2. 日本文化創造の場 242

(1) 王権の二重性 242

御所と天皇／「形式」と「素材」―祭祀王と政治王―／「祭祀王」への純化／「政治王」の属性の顕現は危険

(2) 京都と日本の文化 247

東京遷都／「政治・経済・文化」の関係／数寄屋造と四畳半／禅の教え

禅宗寺院と茶礼／将軍家御成の飲食饗応儀礼／茶の湯／茶室は「囲い」／西行 世阿弥 利休 芭蕉